

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	グループホームを利用する以前からの主治医を継続しているが、利用者によっては協力医の診療所に変更している。今後も利用者の高齢を考え、24時間緊急時に対応できる、主治医に変更しておく必要がある。	ご本人・ご家族の希望を充分お聞きし、主治医、訪問看護ステーション、職員が協力しながら、緊急時にしっかりと対応できる体制を整える。	家族会などで今後、緊急時とはどのような事が考えられ、どのような事が必要か(主治医の連携、ご家族への協力など)を説明し、ご家族の意思を確認しながら理解して頂く。重度化した場合や終末期の意向は、ご家族、ご本人に確認をし「意思確認書」に記入して頂いているが、それも含めて主治医と緊急時の対応や考えを確認し、主治医の変更が必要な場合は変更する。	12ヶ月
2	35	夜間想定火災避難訓練を行っているが、夜勤職員1人での初期消火や避難誘導は限界がある。消防署やご家族から問題点をいくつか指摘され、誘導の方法や環境など改善の必要がある。	非常災害マニュアルに基づき、職員全員が災害時(特に夜間)の避難方法を理解し、夜勤職員が1人でも落ち着いて冷静に避難誘導を行うことができる。近所の方々に協力していただく。	火災等の災害時の避難誘導方法の勉強会を定期的に行い、職員全員が落ち着いて避難誘導できるようにする。年2回の避難訓練では消防署・地域の方・ご家族にご意見をいただき、職員1人でも誘導できるより良い方法を検討する。隣家の方に非常時通報が繋がるシステムを検討する。	12ヶ月
3	2	地域の方々との関わりは多いが、実際は外での関わりが多く、グループホームのお祭り以外は、施設に気軽に寄って下さる人は限られた人である。	誰でも気軽に、お茶飲みに来れるような、雰囲気と仕組み作りをしていく。	散歩などで地域の方々にお会いした時に、グループホームへお茶会に誘い訪問して頂く。特に高齢者で1人暮らしの方や、昼間1人で過ごされている高齢者の方に声をかけ、いつでも気軽に寄れる場所になるようにしていく。認知症についての理解を深める為の勉強会等を自治会と協力し開催していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

